平成 23 年度　斜面樹林化技術協会現地見学会の開催報告

平成 23 年 10 月 21 日（金）に，斜面樹林化技術協会の現地見学会が館山自動車道鋸山トンネル（千葉県富津市）の切土法面で開催されました。当日は協会員 10 名が参加し，東京都内の会場で施工概要と施工後の植生推移に関する説明を受けた後，東京湾アクアラインを抜けて斜面樹林化工法施工 8 年 5 ヵ月後の植生状況を見学しました。

この現場では，技術委員会による追跡調査により，明瞭な節理の少ない凝灰質砂岩の切土法面でも，施工 3～4 年後に上層を先駆樹種（アキグミ・ヌルデ），林床を常緑広葉樹（ウバメガシ・ネズミモチ・シャリンバイ）が優占する植物群落が形成され，緑化目標を達成している状況が確認されています。今回の見学会でも，法面植生が先駆植物から常緑広葉樹群落に移行している様子を把握することができました。

当日は NEXCO 東京湾アクアライン管理事務所の方から高速道路法面の植生管理に関する解説もしていただくことができ，法面植生がクズ群落になることでイノシシが用地内へ侵入し，法面崩落を助長しているという興味深いお話を聞くことができました。野生動物対策としても，植生遷移を停滞させることのないように緑化目標を明確に定めた法面緑化工の重要性を再認識しました。



施工現場の状況



現場説明を受ける参加者



参加者一同（鋸山をバックに）